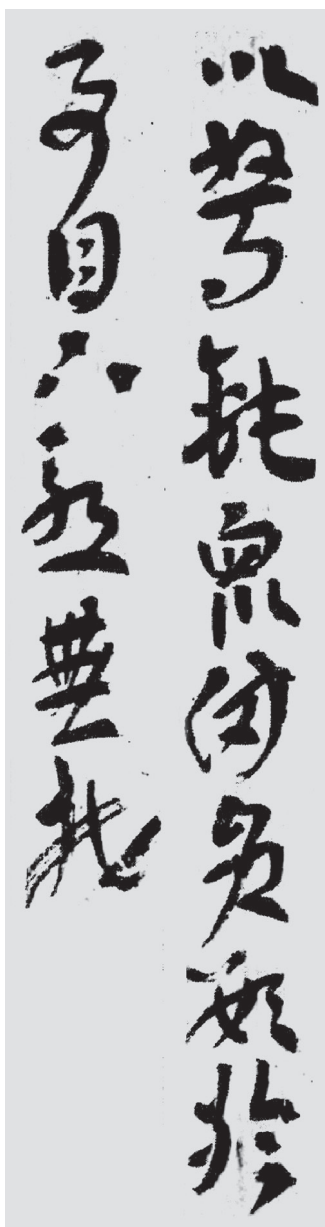


一字書課題 (12月22日締切)

- (1)書体自由 (2)半紙タテ
- (3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4)出品料 四四〇円
- (5)バーコード券の余白に「一字書」と記入

俳

条幅随意参考



以驚鈍衆備員數聽事目下慙無材

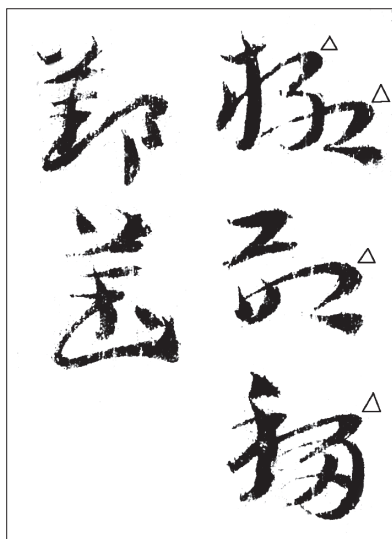
※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(12月22日締切) 出品料440円

木簡(馬圈湾漢簡)

第八回
1、字句「極欲移鄱善」



『簡牘名蹟選⑦』(二玄社)

- 2、形式「半紙タテ使用。右に「極欲移」左に「鄱善」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観「今回は「章草」という隷書の早書き体(草隸)から発展した書体を課題とします。章草は、各字が独立して続かず、詳細に見ていくと末筆で筆を上引き上げる箇所が見てとれます。章草の書としては、索靖の「月儀帖」・「出師表」などがありますが、いずれも伝写の過程で真の姿を失っていると思われます。これに対して、現在、章草の真の姿をとどめるものとしては、木簡資料に求めることができます。今回の木簡は章草の好例で、しかも質の高い作です。課題の部分だけでなく他の部分も臨書されるとより理解が深まると思います。
- 4、各字のポイント

極 起筆は露鋒で軽く入筆し、浮沈の明確な字。△部は筆を回さず折り返し、末筆は上に抜く。

欲 △部は「極」と同様の動き。

移 一画目強く打ち込みすぐ引き上げる。△部は「極」と同様に。浮沈の用筆見事。

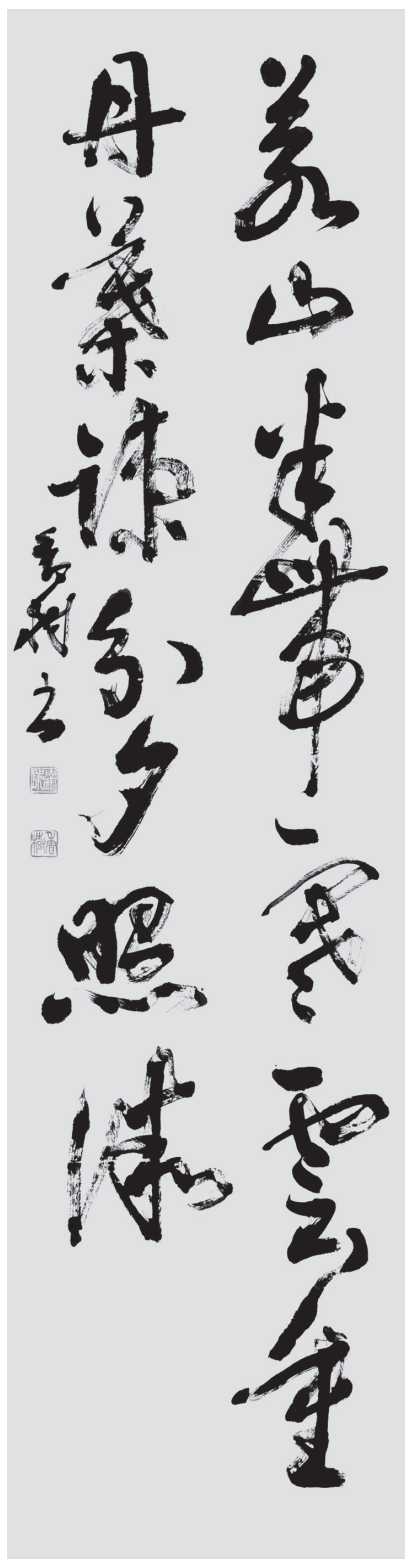
鄱 横画は軽く入筆し、少し押し気味に。

善 横画、「鄱」と同様に運筆。下部の横画は上に強くハネ出す。

書跡名品叢刊『木簡残紙集②』(二玄社)

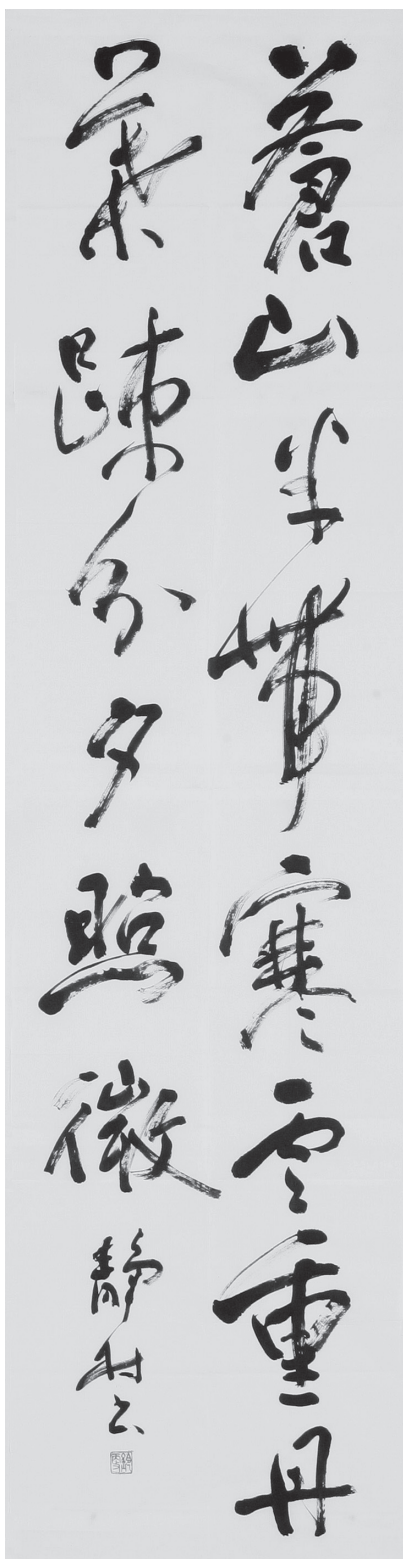
A 高橋香樹会長書

蒼山半帶寒雲重 丹葉疎分夕照微 (林通)
蒼山半ば寒雲を帯びて重く、丹葉疎にして夕照を分ちて微なり。



B 鈴木静村先生書

今回は、草書作としました。連綿は「半帯」と「雲重」の二ヶ所。文字は、左上から始まり、右下で終わるものが多い。これを連綿すると、右から左へと同じ動きの連綿となる。これには注意したい。墨継ぎは「雲」と「分」。



純羊毫の長鋒筆を使って 今回使用の筆は、純羊毫の長鋒。使い込んでいないが、濃墨をたっぷり含ませたその集毫力は普通の筆では到底味わうことができない。入筆の際の止め筆で感得できる弾性(バネ)の感覚は、柔らかい筆毛だからこその実感であろう。ぜひ各位も長鋒の源性を味わってほしい、奨励したいと思います。全体的には細めの表出。直筆蔵鋒の基本用筆はあくまでも遵守。墨継ぎは雲と夕。
訳：青い山に寒そうな雲が半ば重くかかり、まばらに紅葉した葉の間に夕日が見えてともに赤い。

予告 (一月二十二日締切)

幾年寒暑人間世 一點靈明心上天 (王義山)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

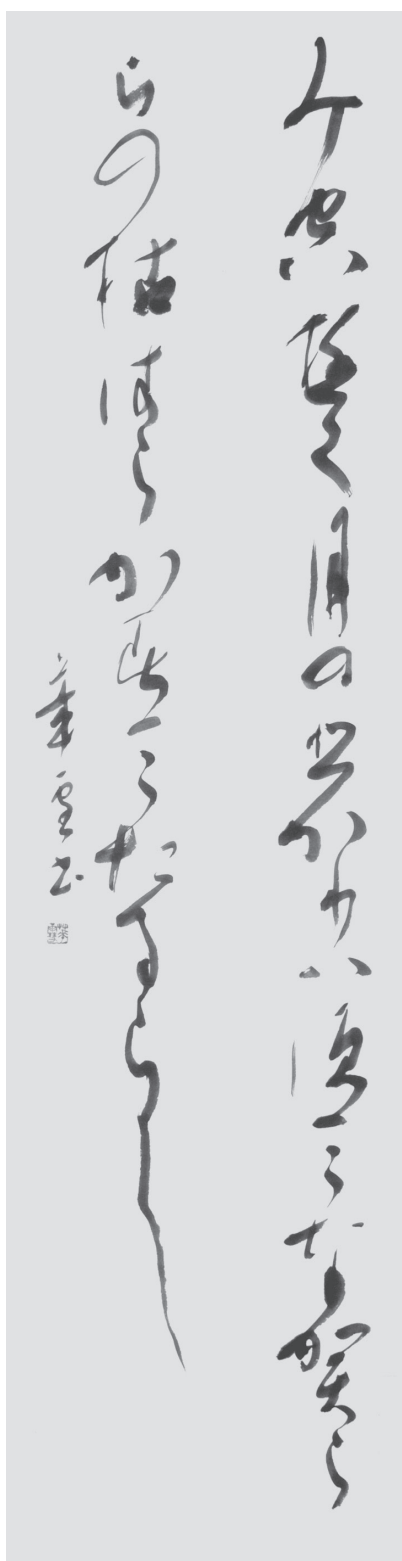
条幅部かな課題参考

(十二月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

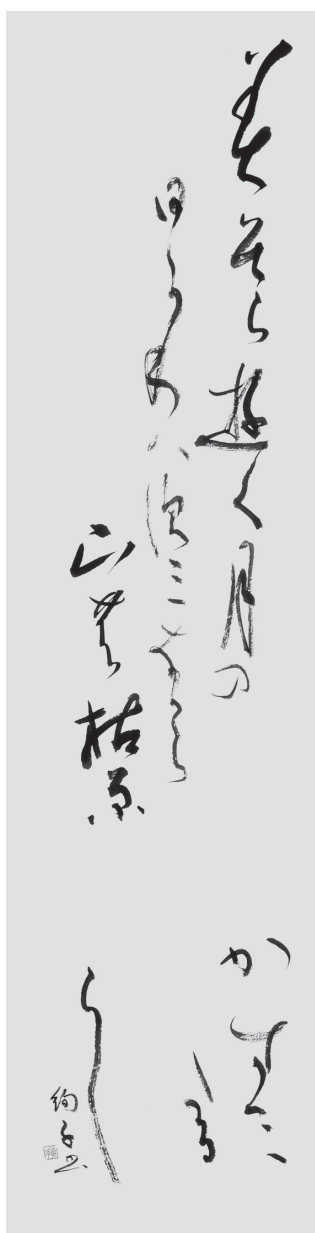
み空ゆく月の光は澄みながら山の枯原かすみたるらし (土田耕平)
み空遊久月の悲か利八須三賀ら山の枯はるか春三たるらし



B

宮絢子先生書

美そら遊久月の日可利八須三奈可ら山農枯原かすみたるらし



土田耕平について
明治二八年(一八九五年)
(昭和一五年(一九四〇年)
長野県諏訪出身。歌人、童話作家。大正四年(一九一五年)療養のため伊豆大島に渡る。大島での孤独な生活の作品が注目された。歌集には「斑雪」。島木赤彦の指導を受け、のちに「アララギ」の選者となる。

学び方

華雪先生の作品は、太くて強い線を主とし、ところどころにある細くて鋭い線が、全体の緊張をやわらげているように感じられます。

Bは、今回も半切たてに二段構成を考えてみました。

半切3/4の長さに一句〜四句まで収めて上段とし、残り1/4の部分に最後の五句目を収めてみました。

上段は三行書きとし、用紙の中心部にその三行を集めました。そして、下段はたった七文字ですが、上段を支える土台になるよう、文字を太目にし、行間の広さには変化をつけて紙幅いっぱい収めました。

予告 (一月二十二日締切)

あさばらけ有明の月と見るまでによしのゝ里にふれる白雪 (古今和歌集 坂上是則)

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考（創作部門最優秀作品）

恵華 吉濱恵瑶

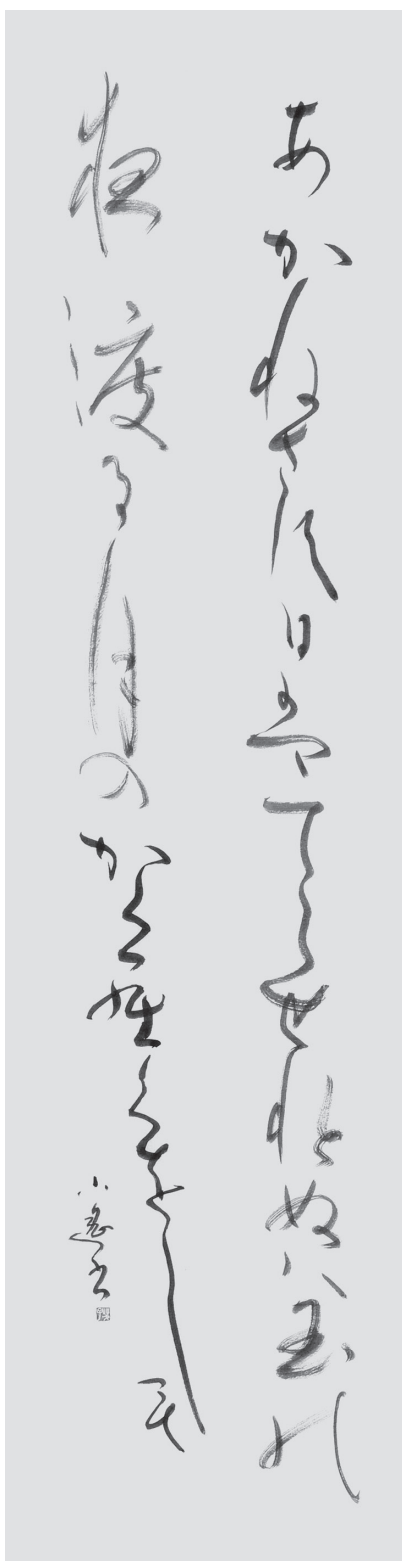
螢飛夜堂靜（王守仁）
螢飛んで夜堂靜かなり。



訳…螢がすいと飛び、夜の住いは静かである。

中根 谷山小遙

あかねさす日は照らせれどぬば玉の夜渡る月の隠らく惜しも（万葉集 柿本人麿）
あかねさす須日盤てらせれとぬ八玉能夜渡る月のか久羅久をし毛



歌意…（あかねさす）日は神ながら厳然と照っているが、夜空を渡る月が雲間に隠れるように、わが皇子様がおくれになったことの口惜しいことよ。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）
- ※創作部門最優秀作品は随意部参考手本として掲載します。

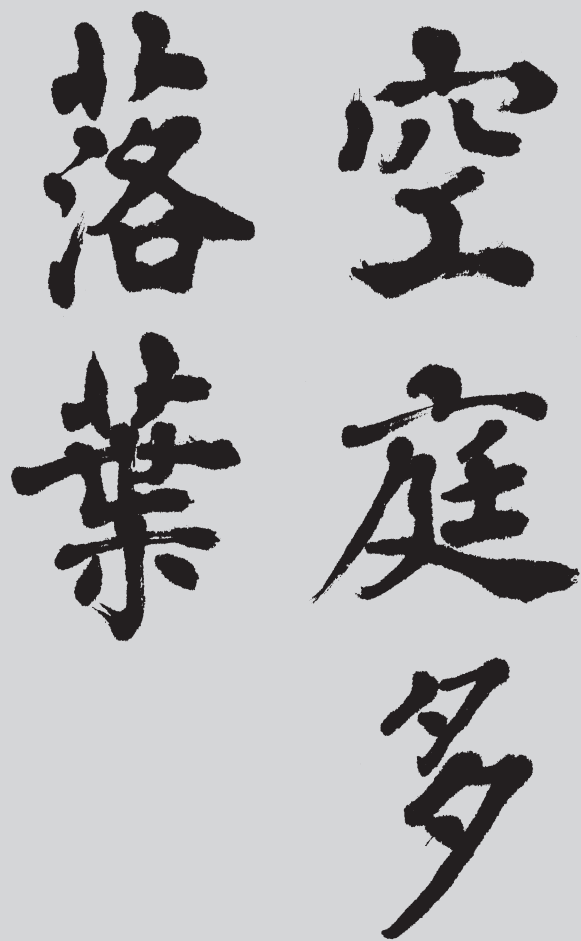
かな部課題参考 (十二月二十二日締切)

漢字部課題参考 (十二月二十二日締切)

平岡華雪先生書

空庭落葉多し(陸游)
訳…ものさびた庭に落葉が多くなっ
た。

〈同じ用筆の習熟〉
「空」「庭」の第一画(点)「多」の「夕」の部分、「落」「葉」の冠等の同じ用筆では、特に筆意(リズム)の習得を充分に。練習を重ねることです。脈絡に留意されるように。

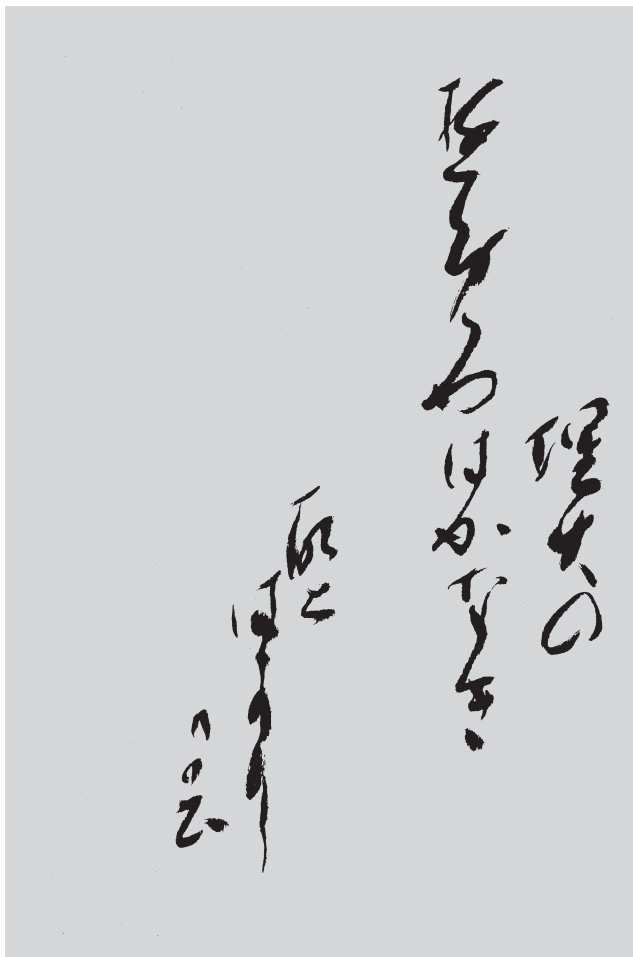


(二月二十二日締切) 来者猶可追(論語)

平岡華雪先生書

埋火のゆめやはかなきことばかり(子規)
埋火の遊免やはかなき故とは可り

「遊免や」この変体がなの表出は夢のイメージを想わせる。一般的には「故」で墨継ぎ「は可り」を「と」に添え伸びやかな収め。落款は雅印を予測して配字してほしい。



(二月二十二日締切) 竹の雪おちて夜なく雀かな(塵交)

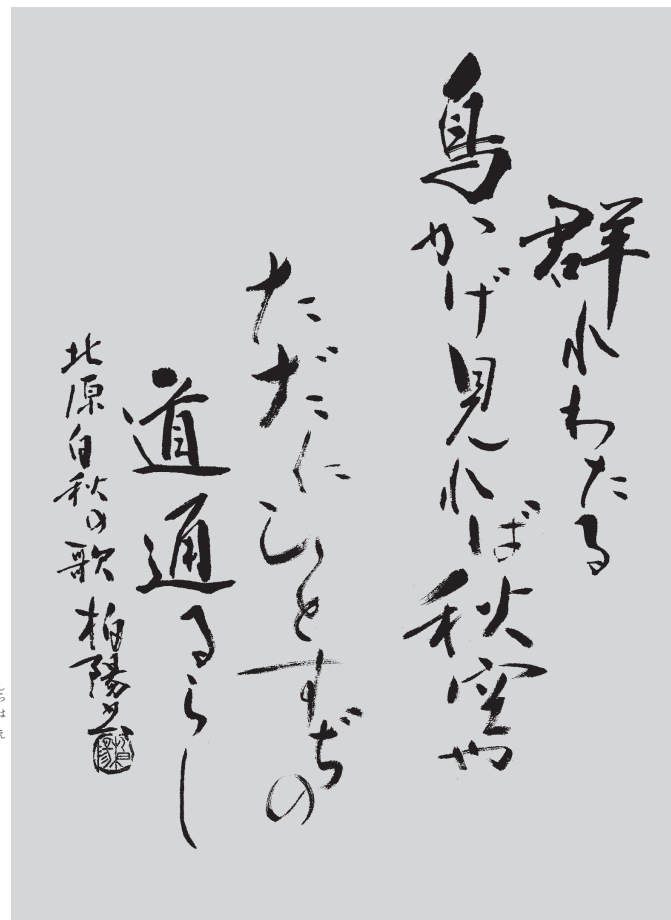
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例:「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

岩佐柏陽先生書

群れわたる鳥かげ見れば秋空やただにひとすぢの
道通るらし
(北原白秋)

漢字かな交じりの書課題参考 (十二月二十二日締切)



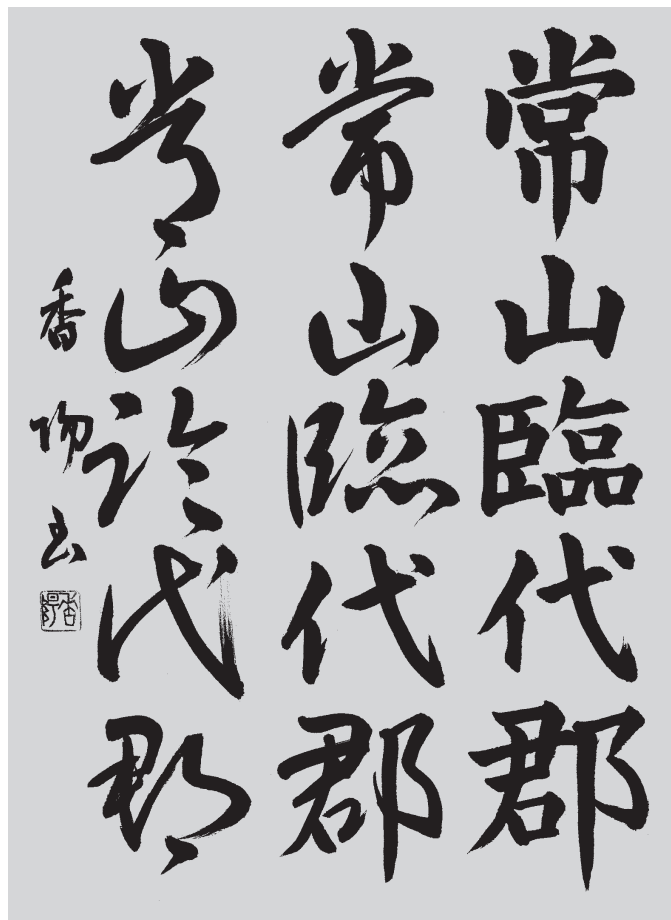
(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

楷、行、草、三体課題参考 (十二月二十二日締切)

北原白秋(一八八五年〜一九四二)が四十九歳の時に刊行した歌集『白南風』所収の短歌。四行書きで、初めの二行をやや上に、真中に余白を挟んで三、四行目を少し下げて書いてみました。基本的には単体で書き、連綿は一カ所のみ。ゆらぎと同時に字のつながりも意識しました。墨継ぎは「道」です。

福田香陽先生書

常山臨代郡(王褒)
常山代郡に臨み

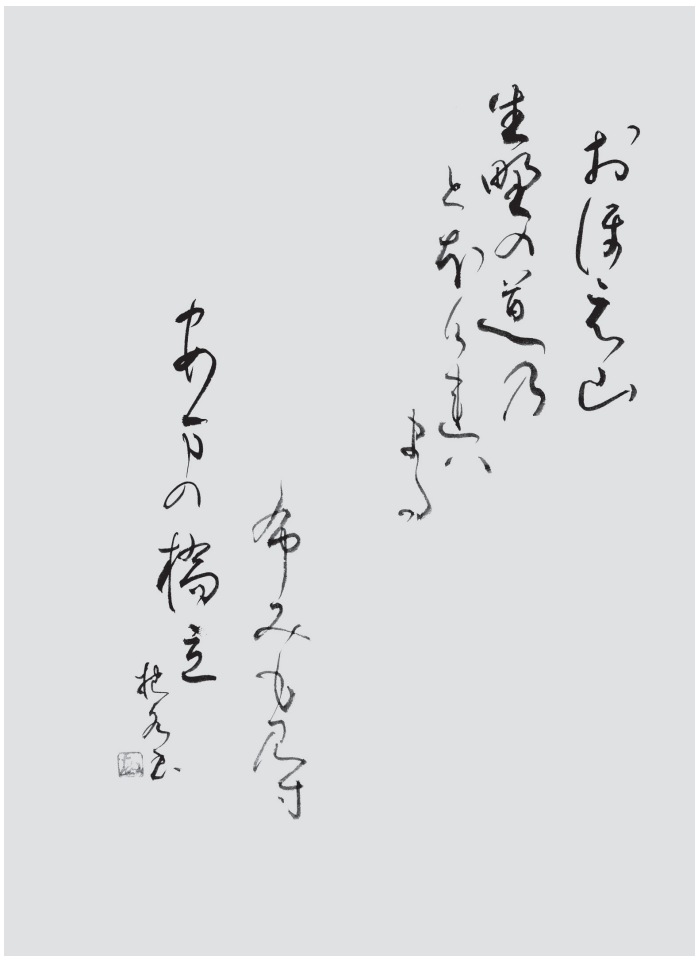


(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

訳：常山の関所は代郡を見おろし

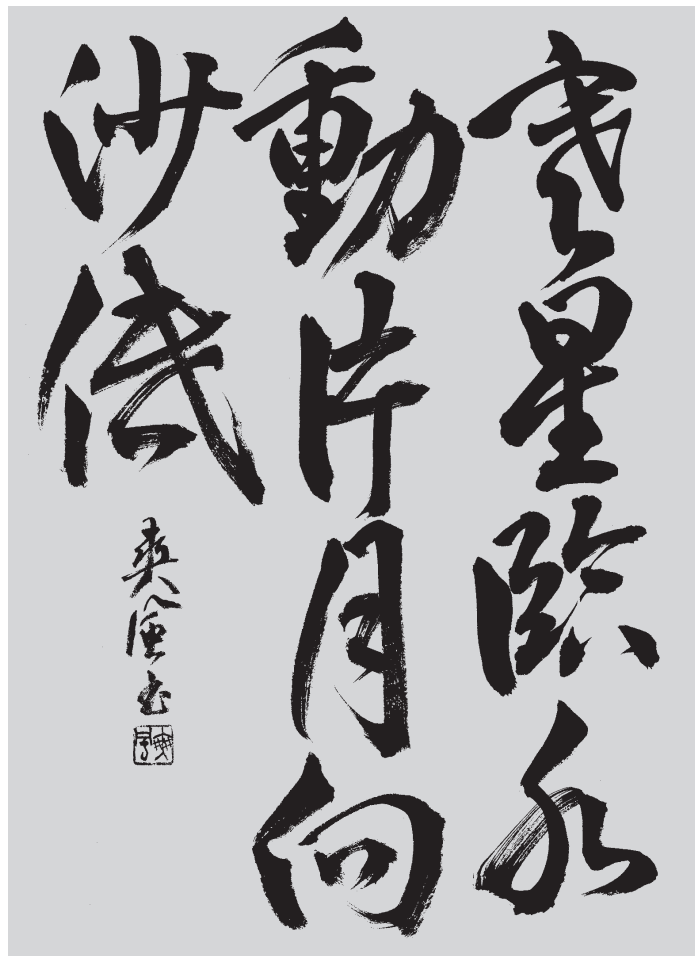
随 意 部 参 考

歌意…大江山をこえ、生野を通してゆく道が遠いので、まだ踏んでみたことはありません、丹後の国の天の橋立は。まだ丹後へ赴いた母からの文も見えていません。



岩本抱水先生書

訳…冬の空の星は水に光をうつして動き、片割れ月は砂に葉をおとして低れて見える。



小森谷爽風先生書

寒星臨水動 片月向沙低 (何景明)
寒星水に臨みて動き、片月沙に向って低る。

硬筆部課題参考

(十二月二十二日締切)

生駒紅泉先生書

稲畑曄穂先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

秋はすっかり落葉になってその鮮やかな反射が林の夕暮れを明るく染めている。

霜の色の蒼白さは雪よりも濃く切ない趣がある。それとは反対に霜どけの土の色の深さは初夏の雨上がりよりも快潤である。

課題1 (初段階以上)

霜の色の蒼白さは雪よりも濃く切ない趣がある。それとは反対に霜どけの土の色の深さは初夏の雨上がりよりも快潤である。

『新生』島崎藤村

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

秋はすっかり落葉になってその鮮やかな反射が林の夕暮れを明るく染めている。

『落葉』三好達治